

2009年04月15日



世界遺産としての価値を探る暫定リスト記載記念シンポジウム

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が1月5日、ユネスコ世界遺産暫定リストに記載されました。これを記念して2月28日、福岡県・福津市・宗像市主催のシンポジウムを福津市カメラホールで開催しました。



市職員による「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の内容についての報告の後、「天井の虹」などの著書があるマンガ家里中満智子さんが、古代の中央権からの視点で、宗像という一地方の豪族との関係を分かりやすく講演。軍事、経済、政治とすべてに長けた天武天皇は、名を大海人皇子（おおあまのおうじ）といい、宗像地域の古代豪族胸形君徳善（むなかたのきみとくぜん）の娘である、尼子娘（あまこのいらつめ）と結婚します。

<好評だった里中さんの講演>

北部九州沿岸は、大陸との接点という位置関係から、外交上重要な地域であり、そうした地域を掌握した地方豪族と手を結ぶことは、国家の政務を滞りなく行う手法の1つでした。その2人の間に生まれたのが、高市皇子（たけちのみこ）です。のちに太政大臣となり政治の中心的人物として活躍します。しかし、母の尼子娘が天皇家の出身ではなかったため、天皇になることはできなかったと考えられていることなどを分かりやすく解説されました。



パネルディスカッションでは、福岡大学名誉教授の小田富士雄さん、福岡教育大学教授の亀井輝一郎さん、歴史ジャーナリストの板橋旺爾（おうじ）さん、九州大学名誉教授の西谷正さん、里中さんが、今後の世界遺産登録に向けての方向性や展開について議論を交わされました。

<遺産の価値や今後の取り組みについて意見を交わされました>

「マスコットキャラクターを作るなど分かりやすい啓発を行うこと」「遺産を持つ市民として誇りをもちながら取り組み、古いものを復元し、現代に生かしていくこと」「さらには国内外の調査を行うこと」「日本人はアピールが謙虚なのでユネスコに積極的に熱意を伝えること」などいろいろな意見が出されました。

福岡市中央区から夫婦で参加した樋口佳雄さん（40歳代）・暁子さん（30歳代）は、「ここに来る前に宮地嶽古墳を見て来ました。里中さんの話を聞いて、沖ノ島をはじめとする遺産群にますます親近感が湧きました。長年守られ、神秘的な歴史文化を感じられる沖ノ島が世界遺産になればとてもうれしいですね」と今後への期待が膨らんだようでした。

今後、世界的な視野での研究が必要となり、海外の専門家を含めたシンポジウムなども計画していきます。



「石見銀山遺跡とその文化的景観」を視察して

国内で直近に世界遺産登録された島根県大田市「石見銀山遺跡とその文化的景観（平成19年7月登録）」を2月24、25の両日に現地視察しました。

江戸時代の代官所で明治期に郡役所として再建、現在は資料館として一般公開されている「石見銀山資料館」。石見銀山から産出された鉱石や鉱山が営まれた歴史などを紹介しています。

ここを出発点に、有料ガイド（20人以下の団体2時間で5000円）の案内で銀山坑道の1つ龍源寺間歩（りゅうげんじまぶ）を目指しました。詳しい説明を聞きながら途中にある寺院や山城、旧家などを視察。ガイドは、退職した学校の先生などが多く、現在50人ほどが登録し、活動しています。



旧家の前で説明するガイドの会



見学できる龍源寺間歩入口

遺跡近くの温泉津（ゆのつ）温泉は、銀の積出港として栄えた漁港で、民宿を含む周辺の建物も国指定の伝統的建造物群として遺産の中心部分となっています。

次の日は、大田市教育委員会大國教育部長から登録までの取り組みや課題などを詳しく聞きました。

世界遺産登録の審査に訪れる国際記念物遺跡会議（イコモス）の調査員は、異なった文化圏であるため、どれだけ理解してもらえるかが重要であること。当初、龍源寺間歩のある大森地区の鉱山だけを世界遺産の中心的な地域として検討していたが、鉱山だけでは難しいと指摘を受け、鉱石を運ぶ道や積み出し港までを含めて世界遺産の構成資産にしたこと。

石見の銀は15～17世紀に世界に広く流通し、日本は「銀鉱山王国」と呼ばれるほどだったこと。世界の鉱山は、山を壊すなど自然破壊を伴いながら採掘されるのがほとんどでしたが、石見では、1923年の休山までの約400年間、自然環境を守りながらの鉱山経営などが評価されたこと。

イコモスでは、現在産業遺産と文化的景観を優先的に登録しているため、そのニーズに合う遺産であれば登録の可能性が高いことなど、市が今後、登録活動に取り組む上で、大きなヒントをもらいました。

石見銀山は、登録直後、100万人近い観光客が訪れたそうですが、現在は減り続けています。大田市としても今後の推移を見守るということで、これからも遺産の保護と活用に向けての試行錯誤が続くようでした。

2009年06月15日



登録に向け本格始動 世界遺産登録推進室が誕生

今年度から、経営企画部経営企画課内に「世界遺産登録推進室」を新設しました。「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録に向けて、本格的な登録活動を推進していきます。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、文化庁をはじめ政府の関係連絡省庁会議の決定を経て、ユネスコの世界遺産暫定リストに記載されました。今後は、世界遺産登録に向けて、多くの課題を解決する必要があります。

まず、世界的な遺産として価値があると認めてもらふことです。国内では、日本人の感覚として遺産の素晴らしさが認められました。次は、世界中の人が見ても、この遺産が世界遺産として登録すべきものと判断されるように、その価値を説明する必要があります。

次に、神聖性の持続です。現在、世界遺産に登録されているものは、歴史的価値があり、登録されるとすぐに観光地として注目されますが、観光公害などが問題になっています。

沖ノ島は、「神宿る島」として禁忌によって、島に渡ることが制限されています。この禁忌も、世界遺産候補としての価値の一つであり、歴史や自然が現在に残されている大きな理由です。世界遺産になったからといって島に行けるといふことにはなりません。この神聖性をどのように守っていくのが課題です。

世界遺産登録に向けて、これ以外にも構成資産の整備保全や、構成資産を保護保全するための緩衝地帯の設定など多くの課題があります。課題の中には、行政だけでは解決できないものもあり、市民のみなさんの協力が欠かせません。世界遺産登録推進室では、今後も世界遺産登録に向けて、みなさんと一緒に取り組み、一つずつ課題を解決していきたいと思っております。



神聖性を持続していく沖ノ島



西洋美術館に対する世界遺産委員会の決定

世界遺産一覧表への記載推薦にかかる国際記念物遺跡会議（イコモス）の調査結果が5月12日に報告され、ル・コルビュジェの建築と都市計画は「記載延期」という勧告が出されました。

今年のイコモス勧告では、19件の新規文化遺産申請に対し、記載7件、情報照会1件、記載延期7件、不可が4件でした。

ル・コルビュジェの建築と都市計画は、フランス文化・コミュニケーション省が、ドイツ、アルゼンチン、ベルギー、スイス、日本との共同推薦で、22の資産を一括して世界遺産に登録しようとしたものです。その中に、東京の上野公園にある西洋美術館が含まれています。

ル・コルビュジェ（1887～1965）は、パリを拠点に活躍した建築家・都市計画家で、20世紀の建築、都市計画に大きな影響を与えたとして評価されています。

しかし、今回のイコモスの勧告では、「資産全体について顕著な普遍的価値が証明しきれていない」「資産全体とほかの20世紀の建築や都市計画との比較研究が不十分」などの厳しい指摘を受けています。

これを踏まえ、6月22日～30日にスペインのセビリアで開かれた「第33回世界遺産委員会」の結果、ル・コルビュジェの建築と都市計画は、「情報紹介」となりました。

今後は、補足情報を整え、推薦国に提出すれば、世界遺産委員会で登録に向けた再審査が実施されます。



(c) 国立西洋美術館

世界遺産への道8 < 専門家会議が発足 >

2009年08月15日



専門家会議が発足

第1回「宗像・沖ノ島と関連遺産群」専門家会議が6月17日、福津市カメラホールで開催されました。

この専門家会議は、世界遺産学、建築史学、考古学などの専門家6人で構成（下表）。世界遺産登録に向けて専門的・学術的な見地から検討をしていきます。

当日は、沖ノ島を除く各構成遺産を見学後、会議を実施。その中で、委員長に西谷正さん、副委員長に佐藤信さんが選出されました。

今後、会議では沖ノ島の国家的祭祀（さいし）と信仰の継続を軸に具体的に議論し、コンセプトの決定と、それを世界の人々にわかりやすく伝えるネーミングを再検討していくことを確認。また、田熊石畑（いしはたけ）遺跡を構成資産に含めるかどうか検討することになりました。

2回目の会議は11月ごろに開催予定です。将来的には、より多角的に検討するため、海外の専門家を加えることも考えています。

今回の会議では、国内の名だたる専門家が集まり、口々に沖ノ島の素晴らしさを語っていました。改めてこの貴重な遺産を未来へつなげなければと、思いを強くしました。

委員	所属	専門
稲葉信子	筑波大学大学院教授	世界遺産学
岡田保良	国土舘大学イラク古代文化研究所教授	建築史
金田（きんだ）章裕	人間文化研究機構長	歴史地理学
佐藤 信	東京大学大学院教授	古代史
西谷 正	九州歴史資料館館長	考古学
三輪嘉六	九州国立博物館館長	考古学・文化財学



谷井博美市長（中央）と田熊石畑遺跡を見学する専門家会議の委員

2009年09月15日



沖ノ島を知事らが現地視察 古代人の航海の苦労を実感

第2回世界遺産推進会議が7月18日、福津市カメラホールで開かれ、午後からは、沖ノ島を現地視察しました。

推進会議の委員は、経済界、大学、市民団体、行政などのトップで構成。麻生渡県知事を会長に、谷井博美宗像市長と小山達生福津市長を副会長として組織されています。

推進会議では、まず、今年1月5日にユネスコ世界遺産暫定リスト記載を記念してカメラホールで開催した「暫定リスト記載記念シンポジウム」、啓発看板やポスター類の作成など、平成20年度の事業報告がされました。

続いて、専門家会議や国際シンポジウムの開催、広報啓発の実施など、今年度の事業計画や予算案が承認されました。

また、会議では、関連遺産群の世界遺産としての価値や女人禁制の問題について、活発な意見が交わされました。

午後は、関連遺産群の象徴、沖ノ島を現地視察。麻生県知事や谷井市長ら約70人が参加しました。天候は「晴朗なれど、波高し」。福岡漁港から高速船で1時間20分ほど高波に揺られ、沖ノ島へ到着しました。

直ちに、海で身を清める「みそぎ」を実行、その後、石段を上り沖津宮へ到着。神事後、「なぜ沖ノ島で国家的な祭祀（さいし）が実施されていたのか」などの説明を受け、岩陰祭祀遺跡や半岩陰・半露天祭祀遺跡、露天祭祀遺跡を視察しました。

沖ノ島への渡島は、体力を消耗します。高速船で渡島したこの日も、玄界灘の波が高く、体調を崩す人が出るなど、過酷なものとなりました。半岩陰・半露天祭祀のころの遣隋使や遣唐使など、使節団の航海の苦労は、計り知れないものがあることを改めて実感させられた視察となりました。

■問い合わせ先 世界遺産登録推進室 ☎ (36) 1 3 7 2



猛暑の中で実施された沖ノ島現地視察

世界遺産への道 10 《新たに 13 件の世界遺産が誕生》

2009 年 10 月 15 日



新たに 13 件の世界遺産が誕生

第 33 回世界遺産委員会が 6 月 22 日～30 日、スペインのセビリアで開催され、今年の世界遺産リスト登録の可否が決定しました。

広報紙 7 月 15 日号で、東京の国立西洋美術館を含む「ル・コルビュジェの建築と都市計画」が、「情報紹介」に決定したことをお知らせしましたが、今回は、全体の結果をお知らせします。



今回の新規世界遺産候補は 30 件。そのうち 13 件が新規登録となりました（下表）。これは、昨年の 27 件の半以下で、審査が一層厳しくなっていることがうかがえます。

また、今回の委員会では世界遺産リストからドイツの「ドレスデン・エルベ渓谷」が削除されることも決定されました。交通渋滞緩和のため、橋をエルベ川流域に建設することになり、これが文化的景観を損なうと判断されたからです。ドレスデン市は、景観より利便性を選択しました。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が世界遺産委員会で審査されるころには、さらに厳しくなっている可能性もあります。しかし、課題を一つ一つ解決しながら、ふるさとの「誇り」を世界にアピールしていきます。

将来、ドレスデン市のように開発と景観の選択を迫られるかもしれません。しかし、歴史的遺産をできる限りそのままの形で、未来へつないでいきたいと考えています。

写真：世界遺産リストから削除されたドレスデン・エルベ渓谷

2009 年世界遺産新規登録

分類	国名	遺産名（仮日本語訳）
文化遺産		
1	イラン	シューシュタルの歴史的な水圧施設群
2	韓国	朝鮮王朝の王墓群
3	中国	五台山
4	カーボヴェルデ	シダーデ・ヴェルハ、リベイラ・グランデの歴史地区
5	ブルキナファソ	ロロペンの廃墟
6	ペルー	スペ渓谷・カラルの神聖都市
7	キルギス	スレイマン・トゥーの聖なる山
8	スイス	ラ・ショー・ド・フォン／ル・ロクル 時計職人の都市
9	スペイン	ヘラクレスの塔
10	ベルギー	シュトックレー邸
11	イギリス	ポントキシルテ水道橋と運河
自然遺産		
1	イタリア	ドロミティ山岳地帯
2	ドイツ／オランダ	ワッデン海

世界遺産への道 1 1 《沖ノ島の魅力教えます 出前講座を実施中》

2009年11月15日



沖ノ島の魅力を教えます 出前講座を実施中

世界遺産登録推進室では、もっと多くの人に沖ノ島や世界遺産の魅力を知ってもらおうと、出前講座として「ルックルック講座・世界遺産とは」を随時開催しています。

昨年度から、各地区コミュニティへの出前講座や、小・中学校での講演会などを実施してきました。しかし、まだ「沖ノ島という名前だけしか聞いたことがない」「世界遺産って何？」という人が多いのが現状です。

「沖ノ島と関連遺産群」が世界遺産に登録されるためには、市民のみなさんと一緒にもっと沖ノ島や世界遺産のことを知り、宗像の自然と歴史を誇りに思い、遺産の魅力を世界に発信することが大切です。その思いが、世界遺産登録への後押しになります。

世界遺産登録活動を全く知らない人も大歓迎。話を聞いてみたい人は問い合わせを。

＊ルックルック講座の申し込みは、市民活動交流室 ☎ (36) 0311 で随時受付中

■問い合わせ先 世界遺産登録推進室 ☎ (36) 1372

【世界遺産・文化遺産とともに暮らすためのまちづくり講演会】

「ともあゆサポーターの会」が開催。入場無料。福津市教育委員会後援。

●日時 11月21日(土) 午後1時～同3時

●会場 福津市カメラホール2階・大研修室

●内容

▽第1部＝地域の遺産を守る「今はじまる未来遺産運動」／寺尾明人さん(社団法人日本ユネスコ協会)

▽第2部＝文化遺産とツーリズム／西山徳明さん(九州大学芸術工学研究院教授)

●定員 先着100人

■問い合わせ先 同会(池田) ☎ (43) 5436



宗像大社で小学生を対象に開催した講座の様子

世界遺産への道 1 2 《沖ノ島で住み込み漁「オリコミ」》

2009年12月15日



沖ノ島で住み込み漁「オリコミ」

世界遺産調査の一環として、大島の古老による知られざる沖ノ島の話を集めています。今回は古老から聞いた話の一部を紹介します。

第2次世界大戦中、沖ノ島には、長崎県の対馬と同様、大陸との最前線として多くの兵隊がいたようですが、大島の住民が沖ノ島に兵隊として配置されたことはなかったようです。

ようやく、戦後の昭和22年ごろから沖ノ島近海での漁が再開。戦時中の休漁期間に魚が増えたためか、豊漁が続きました。当時、大島から沖ノ島までは船で5～6時間。「オリコミ」といって、沖ノ島に半年間住み込んで漁をしていたそうです。漁で得た魚は、下関市場や博多市場から来る買取運搬船に積み込み、このときに食料や手紙を調達していたそうです。

写真のような消波ブロックが完成する以前は、漁港内に大波が押し寄せていました。台風や季節風などで漁に出られない時は、複数の船をロープでしっかり固定し、小屋の中に身を寄せて海の様子を見ていたそうです。その光景の中には、1メートルを超えるような巨岩が、波の力で堤防を乗り越えることもあったそうです。

当時の沖ノ島には多いときで、50人ぐらいが寝泊りをしていたようで、選挙のときは、大島村の総務担当者が投票箱を持って来たという逸話が残されています。

■問い合わせ先 世界遺産登録推進室 ☎ (36) 1 3 7 2



昭和50年ごろの沖ノ島漁港

2010年01月15日



新しい構成資産を検討 田熊石畑遺跡と御嶽山

第2回専門家会議が昨年11月11日、福岡市の吉塚合同庁舎で開催されました。昨年6月の第1回会議で課題とされた「本遺産のコンセプト」の意見交換を中心に、田熊石畑遺跡の新規構成資産としての検討や、大島での構成資産の追加案件などを検討しました。

田熊石畑遺跡は、世界遺産の構成資産の点では、ほかの遺産との関係や位置付けが大きな課題。沖ノ島の祭祀（さいし）と信仰の始まりを裏付ける遺産として、弥生時代の田熊石畑遺跡がどこまで価値を証明できるかが大きなポイントになりそうです。

また、大島での構成資産の検討で2つの報告をしました。1つは、昨年7月の大雨で、県道ののり面から大量に流出した土器で、大島にも弥生時代の遺跡が認められたこと。もう1つは、大島の御嶽山で露天祭祀遺跡が新たに確認されたことです。今後、弥生時代の遺跡と御嶽山の遺跡を含め、構成資産としてどのように位置付けられるかを検討します。

さらに、構成資産周辺の環境保全や景観も話題となり、「現在の構造物や今後の開発で、環境や景観に配慮して検討を進めていく必要がある」との意見が交わされました。

今回の会議での意見を踏まえ、福岡市のホテルレガロで1月30日（土）に海外の専門家を交えた非公開の国際専門家会議と、アクロス福岡で同31日（日）に一般公開の国際シンポジウムを開催。海外の専門家の目線を通して、本遺産の姿を知ることができます。

*国際シンポジウムの申込受付は締め切りしました

■問い合わせ先 世界遺産登録推進室 ☎ (36) 1372



大島の中津宮と御嶽山

世界遺産への道 1 4 《文化財周辺の景観にも配慮》

2010年02月15日

世界遺産登録のためには、沖ノ島や宗像大社、古墳群のように構成資産の核となる部分（コアゾーン）と、核の部分を守るための緩衝地帯（バッファゾーン）の範囲を、保護根拠とともに決める必要があります。

文化財保護法の中には、史跡名勝天然記念物や伝統的建造物群などがあり、貴重な物件を守るために、変更が規制されています。これまでの日本の法律は、規制による保護・保全が中心で、その周辺にある景観にはあまり関心を示していませんでした。しかし、世界遺産というバッファゾーンは、その景観に配慮するところにあります。

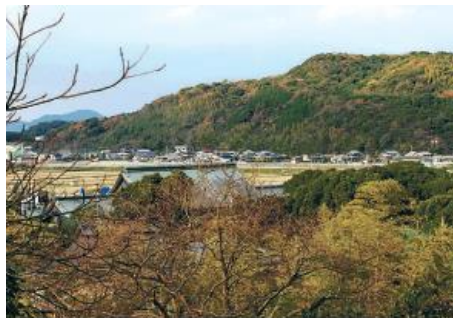
世界遺産にならなくても、地元の景観を残すことに積極的に取り組んでいる地域もあります。日本で最初に重要文化的景観地区に選定された滋賀県の「近江八幡の水郷」では、葦原（あしはら）の景観を残すことに取り組んでいます。この地域は、もともとアシを使った製品の販売を生業としていた集落でした。そこで、現在ほとんど使われなくなった葦原を景観として残そうとしています。

また、身近なところでは、大分県日田市の「小鹿田焼の里」も、重要文化的景観地区に選定されています。

宗像市では、どの場所が優れた景観でしょうか。高度経済成長を迎える以前の農漁村の景観ではないかと思います。山すそや小高い丘に築かれた集落、低地に営まれた田園、良好な海岸地帯を保つ松原や砂浜などは、未来に引き継ぐ貴重な景観ではないでしょうか。

市内には、多くの価値ある自然や景観が残されています。景観は規制するものではなく、生活に溶け込んで自然に作り出されるものです。世界遺産では、景観法や文化的景観地区などでバッファゾーンを設定しますが、みなさんと一緒に宗像の良好な景観とは何かを考えたいと思います。

■問い合わせ先 世界遺産登録推進室 ☎ (62) 2 6 1 7



宗像大社辺津宮・高宮祭場からの風景

遺産の価値を再確認 国際シンポジウム 「神宿る島・沖ノ島」

2010年03月15日

国際シンポジウム「神宿る島・沖ノ島」が1月31日、アクロス福岡・イベントホールで開催され、定員いっぱい約700人が詰めかけました。

基調講演では、NHK解説委員の毛利和雄さんをはじめ、文化財保存修復研究国際センター（イクロム）の遺跡部門でプロジェクトマネージャーのガミニ・ウィジェスリヤさん、中国社会科学院考古研究所所長の王巍（ワン・ウェイ）さん、ソウル大学校名誉教授の任孝宰（イム・ヒョジエ）さんら海外の専門家が、海洋の信仰を中心に話しました。

パネルディスカッションでは、「宗像・沖ノ島関連遺産群の価値を探る」をテーマに討論。九州歴史資料館館長で、本遺産の専門家会議委員長の西谷正さんをコーディネーターに、基調講演者の4人に加え、筑波大学大学院教授でイコモス国際トレーニング委員会委員の稲葉信子さんが、遺産価値の再確認と、今後の取り組みなどについて意見交換をしました。

■問い合わせ先 世界遺産登録推進室 ☎ (62) 2617

基調講演の主な内容

▽毛利和雄さん「世界遺産とまちづくり」

現在、日本の世界遺産は、文化遺産11件、自然遺産3件の合計14件が登録されています。

文化庁は平成18年から、地方自治体からの提案で世界遺産暫定リスト記載の有無を決めるようになりました。地方では、人口減少や高齢化の問題で低迷している町の活気を取り戻すための1つの手段として、この提案制度に手を挙げた自治体もありました。

しかし現実には、世界遺産登録そのものが厳しい状況になっています。奥州平泉は、平成20年のユネスコ世界遺産委員会の審査の結果、登録延期となりました。

ユネスコでは、世界遺産登録の方向性を、(1)文化的景観(2)産業遺産(3)20世紀の建物(4)境界(国境)を越えて存在する遺産と定めています。

「石見銀山と文化的景観」が平成19年、鉱山遺跡として登録されました。この遺跡は、昭和44年に国の史跡に指定され、昭和50年に設けられた伝統的な町並みを保存する「伝統的建造物群保存制度」で、文化庁のモデル地区として選定。昭和60年には、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。

また、老朽化のため取り壊す予定であった旧郡役所の建物を、町民の運動で維持し、石見銀山資料館として残したことや、地域で文化財を守ろうという目的で結成された大森地区文化財保存会など、総合的な取り組みが実を結んだといわれています。つまり、住民の資産を残そうという意思が世界遺産登録に結びつくということです。

▽ガミニ・ウィジェスリヤさん「海の信仰にかかる遺産とその保存」

沖ノ島は、現存する信仰の遺産に該当すると考えています。そして、顕著な普遍的価値を言う時には、国家を超えた国際社会全体の中での位置づけが重要となってきます。

本当にそこにあるという真実性、人々の信仰がその場所と深く関係していること、精神的・伝統的なものがある、そこに住んでいる人が守り続けていることなどが重要になります。

また、資産の保全管理がきちんとなされていることなど、完全性が保たれていることも登録の必要条件となります。

世界遺産委員会は、市民参加型のプロセスを大事にしており、市民が世界遺産としての評価や管理計画に参画・貢献することができるとしています。つまり、この貴重な文化財を残そうという地元の意識や認識を評価し、これを生かし、地域づくりに貢献するということが重要です。

▽王巍さん「中国東南沿岸地域の媽祖（まそん）信仰」

媽祖神は、沖ノ島と同じ女神ですが、中国（宋）の時代に福建省に実在した人物です。名前は林默（りんもく）、兄1人と妹5人がいました。

林默が生まれた日、真っ赤な流れ星が落ちてきたということで特別な子だと思われていました。

しかし28歳の時、難破した船から人を助けようとして、帆柱で頭を打って死んでしまいます。

地元の人々は、このことを記憶するために、海上の女神としてあがめ、廟を作りました。廟は、その地域の航海安全、安産、子どもの成長などを祈る場として信仰を深めていきます。

中国では、港を造るとき媽祖の廟を建て、新しく船を造ると、その船の模型を廟に納めて安全を祈っています。その信仰は、現在20数カ国に広がり、日本では長崎県にもあります。

一方、沖ノ島の信仰では、女神が実在の人物ではない、拝む対象に像がない、民間信仰にとどまらず国家レベルで信仰されていたなどの違いが挙げられます。

▽任孝幸さん「沖ノ島～半島から見た信仰の遺跡、竹幕洞（ちゅんまくどん）との比較を通じて～」

沖ノ島祭祀（さいし）遺跡と双子の遺跡と称される「韓国全羅北道扶安郡（ちよんらぶくどふあんぐん）竹幕洞祭祀遺跡」は、朝鮮半島西海岸の辺山（びょんさん）半島の先端にあります。この海域は、古代日本と中国を結ぶ航海航路上で重要な位置にありました。

この遺跡は、1992年に国立全州博物館が調査し、長さ20メートル、幅10メートルの範囲に遺跡が確認されました。遺物は、厚さ20～30センチほどの包含層から検出され、三国時代から朝鮮時代にかけてのものが出土しています。一貫して、露天での祭祀であり、建物はなかったようです。

3～4世紀は、壺を中心とした土器が多量に出土し、食べ物や飲み物がお供えされていたと考えられています。

5～7世紀は、祭祀用の壺や器台、馬形土器や青銅器、中国の青磁などが出土しました。壺の中に金属器を入れたものもあります。

また、土器や石製模造品の中には、倭（日本）系遺物なども出土し、当時、倭と百済は友好関係を持ち、中国と交易する際に、この地で祭祀がなされていたと考えられます。

竹幕洞遺跡と沖ノ島祭祀遺跡は、アジアの海上交流で重要な文化遺産です。

パネルディスカッションの主な内容

▽稲葉さん

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、世界遺産としての価値を持っていると思います。世界の人にどのように伝えるか、交易による信仰なのか、東アジアを取り込んで検討するのかななどを議論する必要があります。

▽任さん

竹幕洞遺跡は、土器や金属器などから沖ノ島祭祀遺跡と似ているため、つながりがあります。沖ノ島から直線距離で380キロ離れていますが、互いに海洋航海の重要な位置づけになります。

▽王さん

沖ノ島は、人が入れない神聖な場所。信仰と航海だけでなく、日・韓・中の交流や、4世紀後半から9世紀末の日本国家形成期において重要な遺跡です。

▽ガミニさん

各構成資産を証明するためには、基準に当てはめて物語を作ること、比較・検討して多くの証拠を集めることが必要です。

この遺産を基準に当てはめた場合、「価値観の交流」という点では、航海に伴う資料があり、島を信仰の場として双方向の交流による影響がもたらされたとする物語を作ることができます。

「文明の発生」という点では、神聖な島であり、漁労や航海の安全を願い、交流し、深くかかわった宗像氏族を証明するものとして古文書や古墳などは重要なものになります。

「関連性」という点では、本遺産の物語から見て、どの部分に重要性があるのか、信仰の基準としてさらに調査する必要があります。

登録基準以外にも、管理保全をどのように実施するのか、登録に向けて行政と市民が共に理解し、協力する必要があります。

▽稲葉さん

遺産のポイントは、海上交流の上で重要なのか、東アジアの交流による信仰の形成が重要なのか、祭祀が国家的になることが重要なのかを検討する必要があります。

▽ガミニさん

沖ノ島は、定期船で行くことはできませんが、世界遺産委員会が、その場所の考え方を尊重し、守るために立入制限をすることは問題ありません。

▽毛利さん

観光と保存管理をどのように対処するか、保存管理計画を立てる時は、いろいろな方法があるので聞いてほしい。

▽西谷さん

世界遺産の登録には、地域の協力が必要です。福津市には「ともあゆの会」、宗像市にも暫定リストに載る前から活動をしていた「沖ノ島物語実行委員会」があります。今後も、地域住民との理解と協力を得ながら取り組んでいくことが重要です。



登録には「住民の取り組みも大事」と訴える毛利さん



世界遺産登録の必要条件を話すガミニさん



遺産の価値をテーマに討論されたパネルディスカッション



「中国の信仰と沖ノ島の信仰の違い」を説明するワン
さん



沖ノ島は世界遺産の価値を持つと話す稲葉さん



沖ノ島と韓国・竹幕洞を比較するイムさん

世界遺産への道15《1年間を振り返って》

2010年03月15日

市役所に世界遺産登録推進室が設置されてまもなく1年になります。学術・研究はもちろんですが、一人でも多くの人に「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の魅力や価値の素晴らしさを知ってもらえるように活動してきました。

今回は、1年間の活動をまとめて紹介します。

今後も、世界遺産登録へ向かって一歩ずつ進んでいきますので、理解と協力、応援をよろしくお願いします。

■問い合わせ先 世界遺産登録推進室 ☎（62）2617



1. 世界遺産出前講座

各コミュニティや学校、一般企業など、多くの市民のみなさんに、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」を知ってもらうために、出前講座を開催しました。



2. 調査・視察

7月の推進会議後に、沖ノ島の現地視察を実施。島の神聖さに、「このままの姿を未来に残していかなければ」という思いを強くしました。



3. 世界遺産PRブース

さまざまなイベントで世界遺産登録活動をPRしました（写真は小倉競馬場）。これからも情報発信に力を入れていきます。



4. サポーターバス見学会

サポーターのみなさんと世界遺産の構成資産を見て回る企画。身近にこんなに素晴らしい場所があることを改めて実感したという感想もありました。

●主なPR活動

実施日	内 容	
平成 21 年	4 月 30 日	世界遺産PRブース設置（小石原民陶祭）
	6 月 5 日	世界遺産DVD上映、世界遺産出前講座（宗像高校）
	6 月 5 日	世界遺産出前講座（筑前地区中学校長研修会）【写真 1】
	6 月 8 日	世界遺産啓発看板設置（JR 東郷駅）
	6 月 17 日	第 1 回世界遺産専門家会議、構成資産視察 （福津市カメラアホールほか）
	6 月 25 日	宗像高校ロボカップ世界大会出場に記念Tシャツ贈呈
	7 月 4 日	世界遺産PRブース設置（直方イオン）
	7 月 18 日	第 2 回世界遺産推進会議、沖ノ島視察 （福津市カメラアホール、沖ノ島）【写真 2】
	7 月 25 日	世界遺産PRブース設置（JRA 小倉競馬場）【写真 3】
	8 月 21 日	世界遺産PRブース設置 （宗像ユリックスでの小中一貫教育全国サミット in 宗像）
	8 月 23 日	世界遺産出前講座（むなかた協働大学・観光コース）
	10 月～	世界遺産サポーターバス見学会（計 5 回実施）【写真 4】
	10 月 25 日	テレビで世界遺産をPR（実業団女子駅伝西日本大会）
	10 月 31 日	世界遺産出前講座（宗像高校創立 90 周年記念パーティー）
	11 月～	世界遺産を学ぼう講座実施（コミュニティ 3 地区）
	11 月 1 日	世界遺産PRブース設置 （宗像ユリックスでの歯科医師大会）
	11 月 11 日	第 2 回世界遺産専門家会議（吉塚合同庁舎）
	12 月 9 日	世界遺産説明看板設置（大島・沖津宮遥拝所）
	12 月 24 日	世界遺産PRブース設置（北九州空港）
	12 月 25 日	世界遺産PRパネル設置（道の駅むなかた）
12 月 28 日	世界遺産PRパネル設置（市役所本館 1 階・ロビー）	
平成 22 年	1 月 31 日	国際シンポジウム開催（アクロス福岡）
	2 月 17 日	吉村作治さん講演会（市民活動交流館〈メイトム宗像〉）